

「まずは知ること」～個の力で生き抜く～

2014(平成 26)年卒業 児玉 涼

大学卒業後、大手国内製造企業の営業職として横浜市に配属された。

23 年間札幌で育ち、本州へはほとんど行ったことがない私にとっては全てが新鮮であった。映画やドラマで観たことのある景色がたくさん広がっていた。

また、社会人になって生まれも育ちも価値観も違う友人がたくさんできて、世界は広いと思ったのと同時に、生まれ故郷のすべてに誇りを持てる機会ともなった。

今年で 30 歳になる。学生や社会人になったばかりの方に、自分の経験を共有したい。この文章から少しでも皆様の選択肢が増えることを期待する。

新卒から 2 年半は、月～金 9 時出社の 18 時退社で土日は休みという生活を送っていた。家賃は 8 割会社が負担してくれた。何も不自由はなかった。会社は誰もが知る会社、病気がちな親にも仕送りが出来た。全国転勤はあるからどこに住むかは分からないが、お給料は増えていって、結婚して家庭を持って一軒家でも買うのかなと思っていた。

働き始めて 2 年くらいした時から違和感を覚えた。

「この仕事は、僕じゃなくても出来るのではないか」「お給料をもらうために働いているのではないのか」。

社会人としてはまだ赤ん坊が何を考えている。黙って働け。何度も言い聞かせた。会社に不満はない、仕事は順調、何も不自由はなかった。でも恐怖だけが募っていった。「このままじゃ、使えない人間になる」。

前職は 2 年半で辞め、転職した。

次は、外資系企業の営業マンとしてスタートをした。お給料は完全歩合制。固定給はなし。出社はほとんどしなく良い。家賃補助などない。全く前と反対の会社に飛び込んだ。

営業を 2 年半、営業所長として 1 年が経つ。たくさん泣き、失敗し、めっちゃ辛くて。でも圧倒的に手に入れたものがある。

それは、自分は「嫌なことをやらないと、人生に満足を得られない」人間だったんだということである。

そこで気付いた。前の環境にいた時の違和感。仕事で大変なことはあるけど、仕事を離れば僕の人生には何も関係はないし、お給料だけくればそれで良かった。でもそれじゃ「生きてる心地がしない」ということに。

週の 5 日の僕の人生を「殺している」。

今は営業マンを採用している仕事をしている。会う方のお話を聞いて、それぞれの価値観があり、目標がある。素敵なことだ。

出会う全ての方に多くの選択肢を与えて、背中を押してあげられる、そんな人になりたい。

その為に、たくさんの方にチャレンジして痛みが分かる人間になりたい。

緑丘会にも積極的に参加している。親より上の世代の方、兄貴姉御世代、また、同世代。

こんなに幅広い方とお話ができる機会は無いです。

今回は僕の話をしていただけであって、皆さんにとって正解ではない。

限られた時間の中で、皆さんにとっての幸せを考えるきっかけとなればと思います。

その手段として、自分が経験したことがないことをたくさん経験してる方がたくさんいる

同窓会を有効に活用してくださいね。

緑丘会で待ってます(^^)